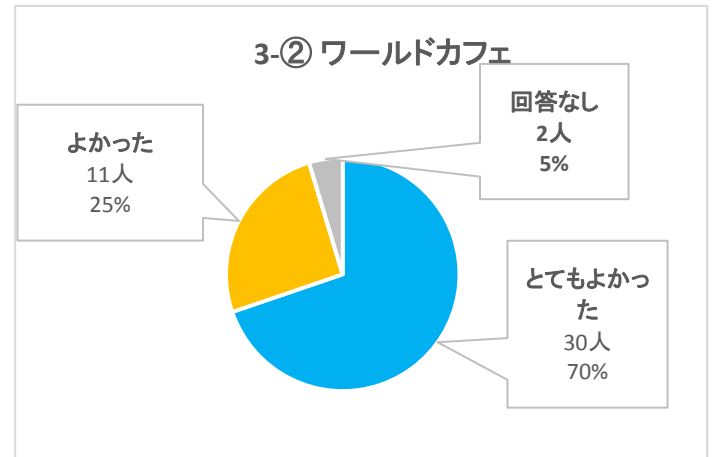
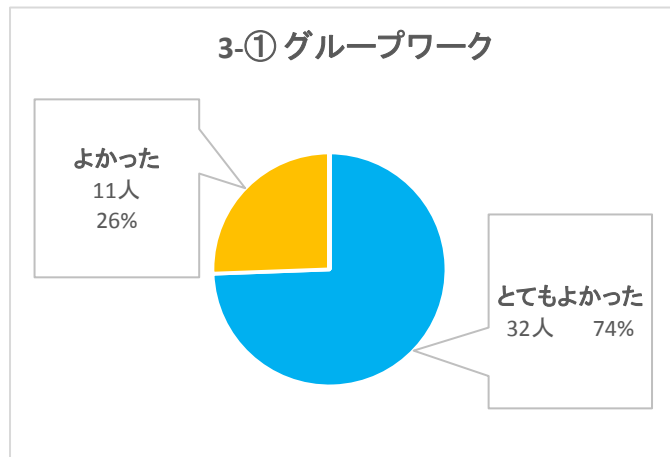
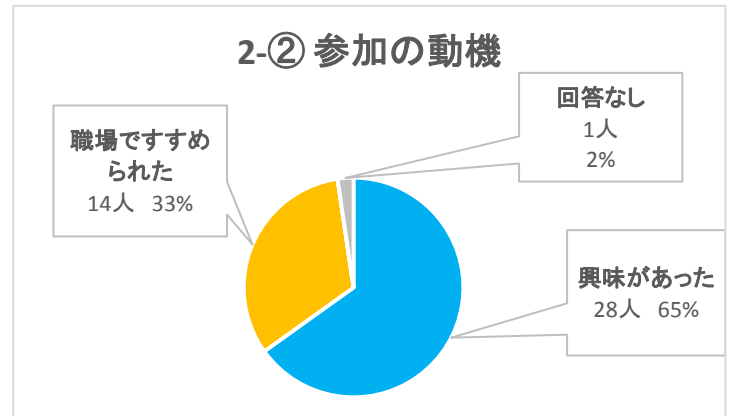
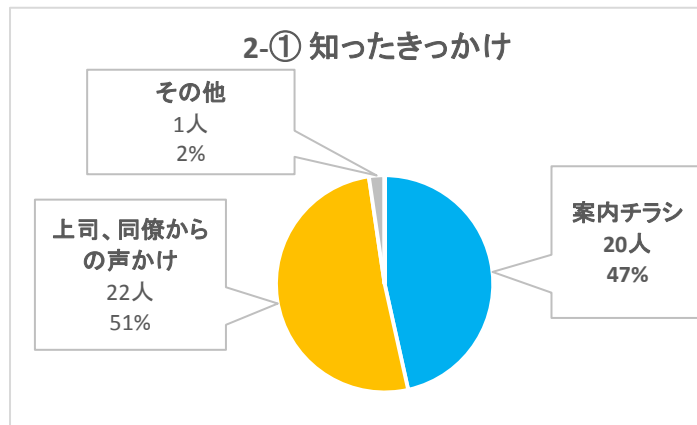
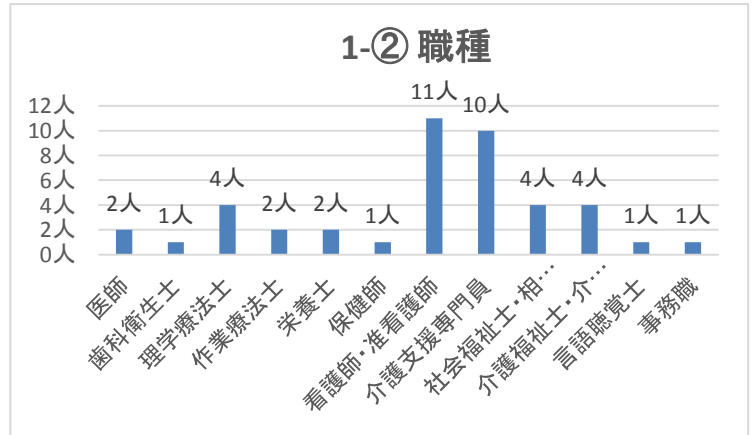
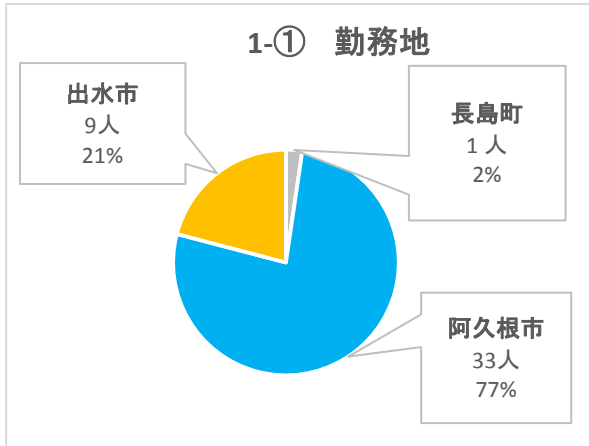


平成30年度 出水地区在宅医療・介護連携推進に係る多職種交流研修会

9月19日(水) 折多地区集会施設

参加人数65名(研修広報班17名含む) アンケート回答43名 回答率89.6%



3-③ 研修会についての意見や次回への改善点など

- ・今回は進行側から解り易く説明してもらいスタート出来たので、大変良かった。
- ・グランドルールの説明はあったが批判の意見があった。
- ・グループワークの時間が足りない。移動は行わず1回目のグループワークのみでいいのではないかと。
- ・同じ職種同士のグループで自分達に何が出来るか考えるワークもあった方が良かった。
- ・各専門職の多様な意見を聞き、視野が広がり勉強になった。(他9件)
- ・非常に考えさせられた。良い研修会だった。チーム医療のあり方を見つめ直したいと思った。
- ・困難事例に直面する事が多々あり、多職種での話し合いの大切さを実感し今後生かされると思った。(他1件)
- ・チームで話し合う事が大切 患者の思いに沿える様にリスクを恐れずに。
- ・知っている事例だったので皆の意見を聞き、色々振り返る事が出来た。

4. 在宅医療・介護連携推進のために取り組んでいることや日頃感じている課題等

【取り組んでいること】

- ・本人様の意向、家族の意向を大切にケアしている。
- ・患者の在宅希望を積極的に受け入れる。
- ・研修会への参加。

【日頃感じている課題】

- 病院と在宅スタッフとの連携、顔の見える関係性が必要。（他1件）
- 意見を聞いた今日、明日は職場でディスカッション！でもそれが無い。
- 医療と介護との連携と質の向上、同一の目標で考えていけたら。
- 仕事、業務以外の部分での関わりがもっと必要だと思う。
- ご本人の思いや、生活の状況の連携。
- 栄養指導をしても独居の男性や近くにスーパーが無い人など、改善が難しい。退院後の事まで見れたら。
- 本人、家族の意見の難しさがあると感じる。
- 介護現場で利用者との関わりをどうとるか、日々悩んでいる。
- 情報共有の大切さ。どのポイントを伝えたらいいか悩む。
- 入居者希望の介護ができたらいいと思う。
- 在宅への退院支援が難しい。医療、施設依存が大きい。
- リスクを考えてしまいがちだが、改めて【本人の意思】に着目しないといけないと考えた。
- 病院の看護師が在宅の事を知らな過ぎる。
- 現状に制度や法律が追いついていないと感じる。
- 在宅復帰の推進と言いつつも、受け皿、環境、体制が整っていない。
- 看取りの出来る在宅医が少ない。

5. 阿久根地区で、一人暮らしや高齢夫婦世帯でも、希望の方が最期までご自宅で過ごす為には、何が不足していると思いますか？

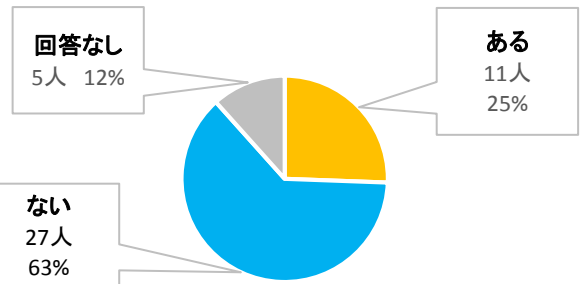
- 訪問看護事業所、在宅リハビリ環境の不足。在宅サービスの不足。（他2件）
- 看護小規模多機能が少ない。
- 人的資源不足【医師、医療、介護従事者】（他1件）
- 金銭。サービスを提供する側もタダでは無理。
- 往診、看取りを行う医療機関、事業所の不足。（他1件）
- 近所との関わり。（他1件）
- 地域の支援（お金のかからないサービス（他1件）
- 現状を把握できていないが、Dr、NSの終末期のハード面はまだ必要。
- 病院看護師の関わり不足。
- 関係者の覚悟への教育、病院医師が在宅へ戻す事。在宅へ向けた服薬管理、薬剤師の協力。
- 使用できるサービス、社会資源の把握不足。周知できていない。（他2件）
- 最期を自宅で迎えたいという本人、ご家族のバックグラウンドを含めた支援。普及啓発。（他1件）

6. 在宅医療・介護連携推進のための具体的な要望

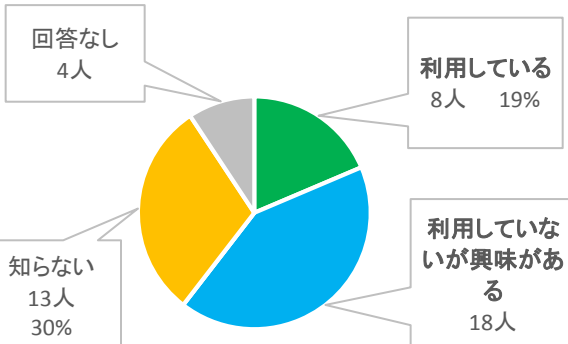
- 【住民向け講演会】
- 認知症について 認知症の方を支える体制、地域づくり
- 介護予防啓発
- 【医療・介護職への研修会】
- 事例検討・精神障害の連携
- 看取り ・新入職員への研修会
- 今回の様な回答が出にくいテーマでの研修会。

7. 在宅医療介護支援センターのホームページに

アクセスした事がありますか？



8. MCS:INAサポートラインについて



出水市多職種研修会 職種別出席数 n65

